

《Apoptosis - A look at what's known and the future :

アポトーシス - 既知の事実と未来への展望》

Shawn : ビル博士は、私たちの体が自然治癒力を高め、健康を維持し、そもそも病気にならないようにするために何をしているのかを研究する専門家です。もし病気になったとしても、私たちの体を本当に助ける栄養を摂ることができます。今日お話しするのは、アポトーシス、アポトーシスと人体への関与、そして細胞を守るプロセスに関する大きな研究についての歴史と、研究者たちの最近の考えについてです。

製薬会社のメンタリティは、まだ少しずれているようです。植物が解決策であることを示す研究があるのに、いまだに魔法の薬に焦点を当て続けています。

でも、ビル博士が少しだけ掘り下げて話してくれます。アポトーシスについて、もう少し掘り下げてみましょう。この後、もう少し掘り下げた内容をお届けするつもりですが、今回は少しだけ。



Dr. Bill : 私は化学が好きで、研究が好きで、サウスウエスタン医科大学で古典的な薬理学のトレーニングを受けました。医薬品は植物からできていることを知っていますし、実際、いくつかの植物は経路を遮断します。その種の植物は、経路を調節する必要はなくて、毒を持った植物です。(Shawn : 私たちが摂取したいものではないですね) しかし、食用植物は調節して、あるべき状態に調整してくれます。食用植物に毒性はなく、調節機能を持つんです。問題なのは、がん治療のように、現在のアプローチは経路を遮断するか促進するかなのです。2, 3 日前に Bcl2 について話しましたが、Bcl2 はがんの半数に、乳がんの約 70%に関与していて、他の人より過剰に (Bcl2 が) 発現しています。そこで、発現を抑えたいのですが、抑えすぎると発現量が少なくなり過ぎて、脾臓のように多くの細胞を阻害してしまい、死に至らしめてしまいます。これが、多くの人々が自己免疫疾患やアルツハイマー病やパーキンソン病を罹患する理由です。細胞が早く死に過ぎているからです。

Shawn : 前にも話したように、Bcl2 という経路は、アポトーシスを行うな、死ぬなという経路なので、これを遮断すると死ぬはずのない細胞が死んでしまうことになるんですね。

Dr. Bill : あなたが神経科医なら、化学療法は望んでいることと正反対のアプローチですし、もしあなたががん専門医なら化学療法はあなたが望むアプローチでしょう。あなたがこれを止めたいのであれば、食べ物が調節してくれます。食べ物は元に戻す手助けをし、一つの経路だけでなく複数の経路に一度に作用するんです。

だから私は、アロエを研究するのが好きなんです。人にアロエの話をするとき、日焼けや火傷のときに効くのは知ってるよと言います。ひとつの薬はひとつの病気に、ひとつの薬はひとつの作用と考えているので、アロエの効能は多過ぎるんです。アロエは調節する働きを持った免疫調節剤であり、私が本を書いた後に世界中のたくさんの人々がアンブロットスを摂取して、彼らがアロエは本当に免疫調節剤であることを示してくれています。

フロリダで行われた素晴らしい臨床試験でアルツハイマー病の助けになることがわかりました、これはまた話しましょう。そしてがんの役にも立ちます、これは話したばかりですね。

Shawn：この製品は 1990 年代に作ったものですね。

Dr. Bill：実際にこれを開発したのは 1981 年ですが、名前がついたのは 90 年代ですね。(Shawn：覚えてます)

Dr. Bill：私たちは名称を申請して、それが実現するまでに何年もかかりました。最終的には 6 年後でした。もし名前が気に入らなかったら、また 6 年待つかもしれないと言われました。だから、私たちはただ、正式な名称が与えられて嬉しかったんです。この名前は、米国一般名 (United States Adopted Names) という団体によって付けられました。この団体は、アメリカ医師会が運営しているもので、同じ薬が 40 もの異なる名前で売られていたため、誰もが知っているジェネリック名が必要だということで設立されたんです。実際、君の弟は最新の薬品名を載せているものを持っているけれど、何千何万とあります。製薬会社はその時流行っているものはなんでも売りたいから。別の商品名を付けようとしても、合意されたジェネリック名を使わなければならないんです。

いずれにしても、私はこの考えを確かめようとしたんですが、彼らはまだ考えています。つまり、ボストン、マサチューセッツ、ヨーロッパで MD アンダーソンがんセンター (の研究員たち) は、アポトーシスを阻害または促進する何らかの低分子を見つけることが必要だと言っています。まだ調節するという考えではありません。近づいてきているので (研究を) 始めてくれればと願っています。

私たちの食べ物における問題は、私たちは今、種子を食べているということです。私たちや動物は植物を食べていました。家畜を飼い始めたとき、記録によれば、中国は 200 年も前から家畜を飼っていたし、アフリカでは 900 年も前から家畜を飼っていました。家畜を飼い始めると、エサを与える必要がでてきました。彼らは家畜たちが何を食べているかを調べ、干ばつなどがあったとき植物を育てるために種を必要としました。

その後、農機具が発達し、9000 年前から種子を採取するようになり、3000 年前にファラオが出現した頃には、種子はすでに栽培されていました。9000 年とか 6000 年とかの歳月をかけて、彼らは種子を食べることができるかもしれないと考えて、小麦の種を食べるようになりました。しかし、現在は遺伝子組み換えされて変わってしまっていて、小麦の種はたくさんエネルギーを与えてくれますが、単子葉植物から作られます。芝などは単子葉植物です。葉を見れば、葉脈はすべて平行です。一方、複雑な植物はすべての栄養素を含み、アポトーシスを調節することができます。これらの植物は、一本の葉脈とサイドに葉脈があります。

Shawn：ブロッコリーやカリフラワー、ニンジンとかサツマイモのようなものでしょうか。緑のもの、緑黄色野菜はすべて、アポトーシスに必要な栄養素を与えてくれるんですね。

Dr. Bill : 草を食べているだけならエネルギーを得ているだけです (**Shawn :** 私たちが食べているほとんどの食べ物、特に加工食品のように) エネルギーを得ているだけならアポトーシスは活性化されないし、アポトーシスが活性化されなければ細胞は自己修復できません。というのも、細胞は複雑な栄養素や、私たちが食べてきたさまざまな植物を必要としているからです。私たちはいろいろな種類の根も食べていました。おかしな話ですが、サイの角って何に使うんだろうってずっと不思議に思っていたんです。ある日、番組を見ていたら、その角で根っこを掘って食べていたんです。すごい耕運機を持っているんです。

Shawn : その根とは、あなたが最近注目しているものですね。根や苦味、ハーブなどは全部、あなたにとって新しく、研究しているものですね。

Dr. Bill : MD アンダーソンと国立がんセンターはともに、これら複雑な植物がアポトーシスを標的とすることを認識しています。そして、植物たちは、がん細胞を除去できるだけではありません。覚えていて欲しいのは、がん細胞がひとつあったとしてもがんではありません。あなたは毎日、数十万のがん細胞を持っているんです。そして、アポトーシスが正常に働けば、がん細胞は除去され、増殖して制御不能になるまでがんになることはありません。アポトーシスががん細胞を除去するという事実は、あなたががんになったということではないんです。健康な人は、アポトーシスによってがん細胞が除去されることを望みます。前にも言ったように、約 600 億個の異常細胞の中には、腎臓の悪い細胞や心臓の悪い細胞、肺の悪い細胞もあります。

Shawn : 24 時間ですか？

Dr. Bill : 24 時間ごとです。健康な人々ではね。もしあなたが病気であれば、もっと多くの細胞を除去する必要があります。研究者たちは、アポトーシスする薬を開発しようと試みています。だから私は、アロエはとて多くのことができると説明できるのが好きなんです。アロエは、4つの異なる経路で働きます。いくつかの植物では6つか7つの異なる経路で働きます。薬は、経路の一部をターゲットにしています。つまり私が指摘したいのは「違い」で、今日話したかったことです。

Shawn : ビル博士がアロエについて話しているのは、皆さんが良く知っていて、特にビル博士に親しんでいるからですが、これから彼の新しい研究を目にしていくことになるでしょう。アロエは始まりに過ぎず、人々の体を本当に助ける世界中の（アロエ以外の他の）植物を使った発見を目にすることになるでしょう。その発見は本当に素晴らしく、多くの人が助けられたし、そうではない人もいました。正直なところ、それは何かが欠けていたんです。

ビル博士は研究を続けていて、私たちの体をサポートするために他の植物は何ができるかを日々研究しています。ビル博士は、他のものについてももっとたくさん話していきますが、皆さんがアロエのことについてよく知っていることを知っているのも、アロエはどんな働きをす

るかを紹介しました。この世界には、私たちの体に必要なものがまだまだたくさんあります。今後、それらについても話していくつもりなので、期待しててください。

この資料を提供するにあたって
動画の内容を理解するため、個人的に翻訳したものです。
誤訳等があっても責任は負いかねます。 作成 堺晶子